

障害者政策委員会

ニュースレター(No. 11) 2012.12.14

障害者政策委員会委員 全難聴副理事長 新谷友良

【第4回障害者政策委員会の開催】

12月10日、4回目の障害者政策委員会が開かれました。総選挙を控え間近に控え、政府関係者の出席はありませんでしたが、代わりに省庁関係者が幹事役として50人以上出席していました。

今回の議事は第4-6小委員会の報告と障害者基本計画に対する政策委員会の意見取りまとめです。障害者基本計画に対する政策委員会意見は、今回と17日の第5回政策委員会です。会議の様子、代わり映えしません一枚添付します。



会議は第4-6小委員会の報告と質疑から始まりました。第4小委員会(医療・療育関係)では、総合福祉部会の議論の再現のような報告と議論がありました。また、精神障害の社会的入院に関連して、認知症をどのように考えるかが議論になり、委員からは「認知症の人の脱精神科医療」という意見が出ました。認知症は大きな社会問題ですが、推進会議や政策委員会では議論されてこなかった問題で、障害と疾病との区別などの問題にも絡んでくる大きなテーマだと思います。新谷よりは、報告の障害支援区分について「障害の範囲を意識した議論か?現行制度で障害者とはみなされない谷間の障害者を支援区分の見直しで救おうという方向か?」と質問しましたが、「小委

員会で議論に時間を掛けられなかった。ニーズ把握を重視すべき」と考えているとの回答でした。

また、第5小委員会(住宅・情報バリアフリー)報告に電話リレーサービスが落ちていましたので、「我が国においても本格的な電話リレーサービス開始を検討すると同時に、携帯端末へ音声認識ソフト搭載し、音声・文字による会話を可能にすべきである。」という文章の追加を発言しました。

続いて、障害者基本計画への政策委員会意見の取りまとめについて議論しました。

「総論と推進体制」に関しては、インクルーシブ社会の理念をもっと強調をすべきなど意見が出ました。新谷よりは、「共通して求められる視点」について、「障害の種別・谷間の解消」が抜けていることを発言しました。また、「先送りできない重要な課題」の「積み残してきた課題」として

- (1) 欠格条項の見直し
- (2) 身体障害者福祉法の別表を含む障害者手帳制度の在り方
- (3) 成年後見人制度にかかわる課題
- (4) 家族依存からの脱却(要検討)

が上がっていましたが、これに対する政策委員会の考え方を何らかの形で書くべき、と言いましたが、委員長・副委員長で検討ということになりました。

障害者基本計画への意見取りまとめは17日の会議で集約が予定されていますが、各論部分が議論の中心になります。また、総論部分でも数値目標の取り扱いなどが残っており、まとめ方が大変です。